

令和元年度 第1回香川県立図書館協議会

日 時：令和元年7月18日（木） 13:30~15:00
場 所：香川県立図書館 研修室
出席者：池田委員、池西委員、猪原委員、梅澤委員、香川委員、笠井委員
川根委員、清國委員、長尾委員、山本委員
欠席者：なし
傍聴席：なし

1. 開会

2.

- ・館長挨拶
- ・委員紹介
- ・議長、副議長選出
- ・清國議長挨拶

3. 議題

(1) 平成30年度運営状況について

- ・事務局より平成30年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記のとおり

委 員：中高生の読書支援は良かったが、ブックハンティングはなかったのか。

事 務 局：以前4年間ブックハンティングをやっていたが、趣向を変えてみようという事で行った。

委 員：しばらくこういう形で行うのか。

事 務 局：昨年好評だったので、今年度も引き続き行う。

委 員：巡回文庫の廃棄冊数が多いのは、何か意味があるのか。

事 務 局：巡回文庫は、この図書館で使うのとは別に購入しているのだが、利用が終わったもの、10年、20年経ったものを廃棄している。まとめて数年間分廃棄しているの、この度特に多かった。毎年こんなに多いわけではない。

委員：対面朗読の申込みをする場合は、どういう手続きで行うのか。

事務局：事前に連絡を頂いて、ボランティアの方と利用者の方との日程調整をする。30年度には利用はなかったが、実際対面朗読をする時は研修室を使用するので調整後の実施となり、申込みをしたその日の実施ということにはならない。申込み頂くといつでも対応出来るようにしている。

委員：個人貸出は岡山について全国2位で、県立図書館で競い合うことはないと思うが、図書館の情報交換の場もあると思うのだが、どのような分析がなされているのか。県立図書館の個人貸出数が多いのは、何か理由、背景があるのか。

事務局：一番面積も小さく、予算もそんなに無いのだが、利用が多いという事で逆に何をされているのかと聞かれる。展示などを行っていること、図書館が郊外にあり、駐車場も広いので、車で来られる方には便利であるのではないかと。具体的に検証した事は無い。

委員：行事数もかなり多く、集客に繋がるようなことをしていることが影響しているのではないかと。

事務局：そうなるように、日々色々行事とか展示等々でも何か話題もすぐ取り入れ、県の記者クラブに情報提供したり、ホームページに掲載し、利用者への情報提供を心がけている。

(2) 令和元年度予算・事業計画について

- ・事務局より令和元年度予算・事業計画について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記のとおり

委員：13ページのおやこde図書館探検、予定人員10組は少ない気がするのだが、10組が精一杯なのか。増えた場合はどういう対処をするのか。

事務局：カウンター体験などがあり、実際に利用者の方との接客、応対をして頂く。10組を5組2班に分けてカウンターでの貸出作業をして頂く。多数になると、対応が難しいということで10組に限らせて頂いている。

委員：県立以外の図書館もあるが、県立図書館だけでお知らせしているのか。

事務局：報道機関への資料提供とか、ホームページへの掲載、カウンター窓口でのチラシの配布を合わせてしている。

委員：10組だと周知の方法にも関わってくるのではないかとと思うが、ここへ来ればわかるという理解で良いのか。

事務局：ホームページにも掲載しているので、図書館に関心がある方には、ある程度周知できるのではないかと考えている。

委員：先着になるのか。

事務局：往復はがきでの申し込みとし、応募多数の場合は抽選となる。

(3) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記のとおり

委員：29年度のA評価は展示だけの1つだけだったと思うのだが。

事務局：29年度もAが6項目で、Bが6項目で数是一緒だったが、AだったものがBになったり、BだったものがAになったものもある。

委員：一番最初だけだったのかもしれない。

事務局：29年度の図書館評価から比べると②の郷土資料受入冊数と⑥レファレンス件数等はBだったが、今年度Aになった。レファレンス件数はまめに記録を取り、郷土資料も色々なところに声をかけ、資料収集した。逆に⑧の児童団体貸出などは29年度はAだったが、団体貸出が減った分、今年度はBになった。

委員：1%でAやBになるのは厳しい。

委員：どこかで基準を引かないといけないから、線を引いた以上仕方ない。

委員：24ページの当館のサービスの満足度についての質問に対して満足、やや満足の2つの回答だけか。

事務局：選択肢は満足、やや満足、やや不満、不満とあり、その中で満足、やや満足の合計数だ。

委員：不満もあるのか。

事務局：選択肢はある。満足、やや満足を88%だったので残りの12%はやや不満、不満、無回答という方もいる。

委員：満足もあるのかもしれないが、不満の声が大事だ。

事務局：昨年アンケートだと満足の方が44%、やや満足の方が44%で、やや不満の方が3%、不満が1%で、無回答の方が8%であった。

委員：満足していない理由は、何かあるのか。

事務局：このアンケートで、やや不満と不満の理由は色々あるが、蔵書についてもっと増やして欲しい、新刊が少ないとかだ。他には開館時間を延ばしてほしいとか、在庫予約をしたいなどがあつた。

委員：パーセンテージを出す時に無回答のものを含めた中で満足度を作っているのか。それなら無回答の人が多かつたら数値は不利に出る。無回答なのだから回答でないと切るべきではないのか。

委員：統計上は無回答も入れないといけない。

委員：無回答はいいのだが、満足度に入れるかどうか。出す時に無回答の人は対象外になるのではないのか。

委員：無効回答は対象外になるが、無回答は対象外には通常ならない。

委員：回答してもらうように、進めなくてはいけないということ。

委員：21 ページの新規登録者数、年齢的に見てみると若い層で新規登録者数が増えているが、何か取組みをしているのか。若い人達の登録者数が伸びる事は大変良い。

事務局：若い方が増えた事は有難い。親子で来て頂けるイベントをしたり、それだけでも違う。

委員：評価を始めて3年、毎年達成目標を定めて階段を上るように達成状況を定めていくという理解で良かったか。もちろん県の田園都市計画に定められているというのは、理解できるが数値目標の設定の仕方全体的にどういうふうに設定しているのか確認したい。

事務局：重点目標を決め、実績から設定している。

委員：毎年毎年、数値を決めているという事でよろしいか。

事務局：県の目標が元々あり、例えば入館者数は最終目標 50 万人の数字がある。それに到達するためには、毎年4千人とか、何千人かを増やしていかないと現状からは到達出来ないという事で、どんどん目標が高くなっている状況だ。最終令和2年度には50万人という数字があるので、それに向かつての目標設定数値で、それ以外については前年度の実績から新しい目標を立てるわけだが、低い目標を立てるわけにいかないの、高い所を目指していくという事で、どうしてもBという項目も出来てくる。高い所を目指すので全てがAになっていけば理想だが、なかなか難しい。

委員：人口は減っているのどこかで頭打ちになるのが想像できる。常に目指していくのは良いが自分で自分の首をしめていくことになる。

事務局：評価Bでも98%いってるBもあれば、80%そこそこのBもある。その辺は色々考えて努力しなければならない。

- 委員：多ければ良いのか。50万人というのは、どういうので50万人なのか。図書館はどんな働きをするのか、どんなあり方をしているのが理想なのか。それから数値がでてこなければいけない。ただ単に増えたら良いという事ではない。貸出冊数が2位なので既に良いとも言える。数をただ増やすことよりは、この図書館をどうしていくか、充実させることが出来るかが大切かなと思った。否定的なものは数が少なくてもすごく大事なことである。2%の否定的な回答が少ないと言えるのか。ものによっては2%でも多い。そういう意味では1人でも不満という人がいたらなぜなんだという追及を始めて良くなっていく。大事な事はダメという理由とこれからどうするのかという事で、数よりもなぜなのかという検討が良い。
- 委員：私も同じ考えでパーセントや数字にこだわらないで、満足か不満足か、そこらあたり図書館に対しての思いが一番大事だ。良ければ来て本にすることに繋がる。やっぱり今のアンケートでいうと良いのか悪いのか、県立図書館を利用されている方が図書館をどう思っているのか。本当は利用していない方がどうして利用していないのか意見を聞けると図書館が充実するような気がする。あまり数字にこだわらないで、良い図書館だと思う。アンケートの方が図書館を評価している気がする。
- 委員：アンケートの中で、新しい本が少ないというのがあるが、それは予算との関係があり、新しい本を入れたいけど出来ない事がある。どういう事をして欲しいのか、何が欲しいのか、どういう分野の本が欲しいのか言ってもらえるとわかる。単に蔵書の新しいのが少ないのが不満というのは、本当に不満というのかなと思う。
- 委員：生徒がたくさん来るなら漫画みたいなのを置けば良い。実際にそういうものを置いて漫画を読んでいる学校もある。県立図書館の使命としてたくさん来るために、何でも置いて良いのか、それは違っている。図書館がどんな働きをするのか、何を目指すのか、それによって決まってくる。生徒がたくさん来るから良いというものではない
- 委員：若い方の図書館利用者が少ないのは市の図書館も同じだ。学校図書室の充実はどうなのか。
- 委員：私の高校ではリクエストを直接に受け付けるという事を今やっているのので、生徒が読みたい本がすぐに短期間で入ってきて、利用数も順調だなと思う。ただ利用する層と利用しない層は分かれているので、それは課題だと感じる。
- 委員：私は常には絵本の読み聞かせを行うのだが、その場面で小さい子の親からどんな本が良いのかという声が一番多い。そう思った時に図書館に行くと、こういう本を探したいと思ったときに、聞いても良いのかなと思う方もいるのではないかと。インターネットが増えているのも大切な事なのだが、やはり入館して頂いた方に接する方が、すぐ説明してくれることが有難く、ずっと続けていただきたい。アンケートというのは年1回行っているのか。何か一言ポストなどは置かれているのか。

事務局：ご意見ポストがある。

委員：それがとても重要だ。そこには、たくさん意見があるのか。

事務局：そんなに頻繁に入るわけではないが、要望はある。施設的な事とか、こんな本が欲しいという要望がある。本についてはリクエストを受け付けており、購入して欲しい本がある場合は、毎週選定にかけている。

委員：こういう意見があり、こういう対応をしたということを、掲示しているのか。

事務局：ご本人が対応について返事が欲しい場合は本人に返事をする。個人情報もあるので公開が原則ではないが、それによって制度が変わる時は、ホームページ等でお知らせする。

委員：意見があっても出来ない事をなぜ出来ないのかということをやさしく説明する事が大切だ。

委員：図書館は本を借りなくても、くつろげる場所が変わってきている。そういう形でも来られる方もいるのか。

事務局：いらっしゃる。

委員：足を運んでくれる方は本に近いと思う。

委員：小学校の場合も年間 50 冊というのを委員会から決められていてそれは何の基準なのか。本校なんかは達成出来てないので、頑張れと言われていた。ただ本校は 2 棟に分かれていて図書室が 4 階の隅っこにあり立地条件としては非常に良くない。子ども達は雨が降ると貸出冊数が増えるので本に全然接してないというわけではない。私はそこまでいなくて良いかなと思う。晴れている日が続くと貸出冊数が減るが、元気に遊んでいるという事だ。機会を設けるという意味では、なるべく開放しようという事で図書の指導員が常置している。図書室に人がいるという事がやっと実現しているので、そういう意味では小学校の冊数というのは増えてきている。市の委員をしている時に中高生の貸出数が少ないという事を聞いていたが、それと比べて中高生の冊数が増えている事は素晴らしい事だ。また、高校生の読み聞かせなど、中高生が来るイベントがある。小学校の団体貸出が減っているという事だが、実は去年ぐらいから制限がかかっている。自由に図書館指導員が借りに行くことが出来なくなっている。勤務の回数や、予算等の関係があるのかもしれない。借りたい本を学校の者が行かなくてもいい形、学校まで運んでもらうのが一番いい。そうしたら貸して欲しいという学校が増える。

事務局：なぜ児童団体貸出が減ったのかわからなかったが、こういうことがあったと分かり有難い情報だ。直接ここに足を運んで自分で選ぶ手間が指導員さんにかかっているのが貸出数が減っているのかと思ったが、勤務上の

関係があることがわかった。最寄りの図書館に宅配できる木守文庫をもっと周知をしたいが、希望頂いても同じ時期に重なることがある。人気のあるセットは2セット揃えたりしているのだが、同じセットをたくさんは買えないので、そのあたりが苦慮している。

委員：良いと思ったのが、読書通帳で達成するとしおりを渡しているところが温かい感じがして素晴らしい。来られる方を増やすには周知が大事だ。私は今日初めて図書館に来たが、車で来れるかどうかもわからないし、どこから入ろうかと思った。図書館は便利なのだと、県の広報とかでPRしたい。私は近くの財団にいるのだが、時間延長のお知らせなど施設に貼らせていただこうと思う。人が来る所に周知があると良い。
1回あたりの貸出冊数がどれくらいなのかなと思うのだが冊数だけで増えた、減ったというと、1回に10冊、20冊を貸したらいいということになる。昔は5冊ぐらいで少なかったので本を大事にしていた。でも今は雑だ。そういう文化はいけない。それを減らして下さいと言いくいかもしれないが、目標に対しては、そういう冊数ではなく、大事にする心を育てていく為には1回あたりの冊数をしぼった方が良いのではないかと。

(4) その他

1) 県立図書館・文書館トイレ改修工事について

・事務局より県立図書館・文書館改修工事について説明